

植樹式 2004



時の蘇生・柿の木プロジェクト

2 月 20 日		取手市立取手第二中学校 日本・茨城県・取手市		1
3 月 20 日		アレアルディー幼稚園 イタリア・ブレシア県・デゼンツァーノ デル ガルダ市		2
3 月 20 日		ガーデン・センター イタリア・ブレシア県・デゼンツァーノ デル ガルダ市		3
3 月 20 日		リボルテラ幼稚園 イタリア・ブレシア県・デゼンツァーノ デル ガルダ市		4
3 月 21 日		ベニールの館 イタリア・ヴェローナ県・ソンマカンパーニャ市		5
3 月 24 日		聖エリザベス・センター イギリス・ハートフォードシャー		6
3 月 26 日		ホリーガート・スクール イギリス・ノッティンガム		7
4 月 1 日		フランカヴィツラ・アル・マーレの博覧会会場 イタリア・キエーティ県・フランカヴィツラ・アル・マーレ市		8
5 月 23 日		アジョン庭園 フランス・リール		9
		大垣市立興文中学校 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市立江並中学校 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市立南中学校 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市立西小学校 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市立綾里小学校 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市立南小学校 日本・岐阜県・大垣市		

取手市立取手第二中学校



日本



茨城県・取手市



2004 年 2 月 20 日

取手市立取手第二中学校の PTA 会長・貫井徹さんが柿の木プロジェクトを中学校に紹介、中学校より学校創立 50 周年を記念して植樹の申し込みがありました。取手市では毎年、市内の中学校から学生 2 人ずつを中学校親善大使として広島に派遣しています。生徒達が広島で学んだ戦争の愚かしさ、平和の尊さを伝えようと生徒会と学校職員が協力して植樹式を企画しました。

植樹式当日はブラスバンド部による演奏の中、1、2 年生 300 人による合唱「世界に 1 つだけの花」が披露され、学校親善大使 2 名が「戦争の悲惨さを忘れず、今を力強く生きることを誓います」と誓いの言葉を発表しました。プロジェクトの DVD 上映ののち、海老沼先生出席のもと 2 本の柿の木が学校正面玄関に植樹されました。植樹式は、県立高校の受験を 1 週間後に控えていたため、3 年生を除き、1、2 年生を対象に実施し



ました。しかし、その晩放映された NHK ニュースなどの様子を見た 3 年生より要望が出て、急遽 3 年生だけを集めての柿の木プロジェクトの DVD 上映会が行われました。



2005 年 1 月 9 日取手市民会館にて「取手市少年の主張大会」が開催され、取手第二中学校の生徒会代表の生徒から「被爆柿の木 2 世」の植樹についての発表が行われました。2005 年 10 月 29 日には取手第二中学校創立 50 周年の式典が開催され、宮島達男から中学校へ 50 周年をお祝いする「柿の木プロジェクトのイラスト」を贈呈しました。この後も取手第二中学校のプロジェクトは継続的に市報でとりあげられ、2009 年、光村図書出版（中学 1 年生向け）の道徳の副読本に柿の木プロジェクトが紹介され、そのページの中に取手第二中学校の植樹式の様子が掲載されています。

2020 年 8 月の取手市の機関誌「広報とりで」は、大きくなった柿の木と取手第二中学校の生徒が表紙をかざりました。

アレアルディー幼稚園



イタリア



ブレシア県・デゼンツァーノ デル ガルダ市



2004年3月20日

2000年に植樹を行ったイタリア・ブレシアの植樹中心者のダリオ・ゾーニョさんの友人、日伊文化協会のロザリオ・マニセラさんの紹介でデゼンツァーノ市のアレアルディー保育園、リボルテラ保育園、ガーデンセンターの3か所の植樹が実現しました。

植樹式当日は午前中、リボルテラ保育園での植樹式を行い、15時からアレアルディー保育園での植樹式です。保育園の子どもたちと保護者の方々がたくさん集まり、海老沼先生出席のもと1本の柿の木を園庭に植樹しました。園舎の窓にはたくさんの大きな柿の木の絵が貼られ、そ

の後軽快な音楽の流れる中、真ん中で子どもたちによる被爆柿の木の物語の創作ダンス劇が行われました。柿の木を囲み皆で輪になり踊りました。最後に子どもたちは柿色の風船を飛ばしました。風船には葉っぱのようなものが結びつけられていて、その葉っぱには「柿の木のように育ち、春。冬は身をひそめ、悲しみの雨を、秋に身をつける。太陽の陽をあび、枝をのばし、私たちはその枝のように手をからませて身体が満たされる。」という詩が書かれていました。子どもたちのエネルギーが爆発する楽しい植樹式でした。



ガーデン・センター

 イタリア



ブレシア県・デゼンツァーノ デル ガルダ市



2004 年 3 月 20 日



2000 年に植樹を行ったイタリア・ブレシアの植樹中心者のダリオ・ゾーニョさんの友人、日伊文化協会のロザリア・マニセラさんの紹介でデゼンツァーノ市内 2 ヶ所の幼稚園（アレアルディー保育園とリボルテラ保育園）の植樹とともに、市内にあるガーデン・センターにも 2 本の柿の木が植樹されることになりました。

3 月 20 日、2 つの幼稚園の植樹式の日の午前中、ガーデン・センターのスタッフに実行委員の手から 2 本の柿の木が手渡されました。後日、柿の木はハウスの前に植樹されました。幼稚園にも設置された同じプレートが柿の木の根元に設置されています。



リボルテラ幼稚園



イタリア



ブレシア県・デゼンツァーノ デル ガルダ市



2004年3月20日

2000年に植樹を行ったイタリア・ブレシアの植樹中心者のダリオ・ゾーニョさんの友人、日伊文化協会のロザリオ・マニセラさんの紹介でデゼンツァーノ市のアレアルディー保育園、リボルテラ保育園、ガーデンセンターの3か所の植樹が実現しました。アレアルディー保育園とリボルテラ保育園はこの年新しくオープンした保育園。オープンを記念して植樹の申し込みがありました。当初、2003年の9月の保育園開園と同時に植樹を希望されていたのですが、柿の木のことを考慮し、苗木にとって一番条件の良い3月に植樹式を行いました。

事前学習で「平和のための科学反応」という授業が行われました。「戦争」というものは人間の科学反応によって生み出されるが、同じように、人間のつながりや出会いという科学反応によって「平和」も生まれてくるという内容。また、物やいのちの大切さを知るために、各教室には「食べ物」や「海の生き物」といったものを展示していました。

植樹式は保育園の子どもたちと保護者がたくさん集まり、海老沼先生出席のもと1本の柿の木



を園庭に植樹。市長、海老沼先生の挨拶の後、子どもたちが制作した柿のちぎり絵など数点の作品の発表をしました。その後、ギター演奏のもと、みんなで楽しく歌を歌いました。先生、保護者の方々、子どもたちの1人1人が一体となり、柿の木を歓迎してくれている想いがとても伝わる、笑顔の絶えない植樹式でした。

この年をきっかけに、ロザリオ・マニセラさんはそれから、デゼンツァーノのあるブレシア地方を中心に20か所以上にもおよぶ場所に「被爆柿の木2世」の苗木の植樹を実施してくれました。



ベニールの館



イタリア



ヴェローナ県・ソンマカンパーニャ市



2004年3月21日

ロコモティバ・フマンテ文化協会の会長、ルッチオ・アレグリさんより申し込みがあり、ビラ・ベニール公園で植樹が実現しました。公園の中には1800年に建設された「ベニールの館」という歴史ある建物があり、植樹式当日、この建物の中には色彩豊かな子どもたちの絵とメッセージがたくさん展示されていました。

植樹式は公園で行われ、市長代理、会長、海老沼正幸先生の挨拶の後、地元吹奏楽団の演奏の中、子どもたちによって賑やかに2本の柿の木が植樹されました。たくさんのカラフルな風船に平和への願いを書いた紙をつけて空高く飛ばしました。植樹後も建物の中で日伊文化協会「FUJIKAI」の協力のもと、習字、お茶会、折り紙などのワークショップが行われました。現地事務局ではルッチオ・アレグリさんとルチア・チプリアーニさん監修のもと、柿の木プロジェクトを紹介する本を自主制作していました。また、植樹式のためのポスターやカードを制作。参加していただいたお客さんに配布し、より多くの方にプロジェクトのことを知ってもらうことができました。



聖エリザベス・センター



イギリス



ハートフォードシャー



2004年3月24日

聖エリザベス・センターは100年の歴史を持つてんかん患者のケア施設。てんかんで苦しむ子どもたちの学校も併設されています。この年、聖エリザベス・センターでは100周年を迎えるため、センター、学校、地域住民が一緒になって行うイベントを計画していました。100周年祭のプロジェクトリーダーはアーティストのレイ・ロルフさん。レイさんは2001年のロンドンのフィンズベリー公園の植樹式に参加、運営も手伝っていました。その時“参加者の中に良い意識が生まれてくるのを見た”と聖エリザベス・センターでの植樹を申し込みしてくれました。

植樹式の当日は患者さんたちとその家族が施設内の教会に集まり、それぞれが平和の願いを書いた柿の葉を七色に輝く木につけていきました。式典には患者さんとその家族、地元の高校生、ヘンリー・ムーア財団の館長が参加しました。プロジェクトについての話などを聞いた後、旗と太鼓、マラカスなどでリズムをとり、平和

の旗を掲げながら植樹場所まで行進しました。2本の柿の木を植樹すると同時に根本には平和への願いを書いた柿の葉を箱にいれて埋めました。

センターに滞在している多くの患者さんが参加、特に戦争を体験した老年世代の方々にはたくさんの温かい言葉をいただきました。彼らは戦争で友人を亡くし、町を破壊された本人たちで、彼らこそが平和への生き証人。そうした人々が柿の木との出会いを本当に喜んでくれました。また代表であるシスター・アネッテは、次のように語ってくれました。「柿の木を1本で育てるのではなく、そこにさまざまな木や人との交流をもたらし、必ず「平和の森」に育てます。同じ木だけの林でなく、森にすることすべてをはぐくみ、守る、そんな場所にします」。

この日展示された「平和の柿の木」や「平和のタペストリー」、別個制作中の「柿の木のモザイク」は近年中に増設されるセンターに飾られる予定とのことでした。



ホリーガート・スクール



イギリス



ノッティンガム



2004年3月26日

2003年、ホリーガート高校のウェンディ・アサートン先生から柿の木の植樹申し込みがありました。学校では授業の中で事前にいくつかのワークショップが行われ、日本をモチーフとしたつい立てにはさまざまな飾り付けがされていました。



植樹式当日は日本から海老沼先生と実行委員がホリーガート・スクールを訪問しました。植樹式には50名ほどの学生と先生が参加。実行委員から柿の木プロジェクトのDVDを贈呈し上映、みんなで見ました。柿の木ふろしきの紹介を行い、ふろしきを用いた簡単なワークショップを実施しました。海老沼先生出席のもと2本の柿の木を校庭の大きな鉢に植樹しました。この2本の柿の木は、後に新設される庭に植えられる予定です。植樹後は生徒によるバイオリン、フルートでの「夕焼け小焼け」の演奏、また、浴衣やチャイナ服のファッションショーなど日本文化を紹介する催しがありました。



フランカヴィツラ・アル・マーレの 博覧会会場



イタリア



キエーティ県・フランカヴィツラ・アル・マーレ市



2004年4月1日

フランカヴィツラレマーレ市のエグゼクティブマネージャーのフィリップポ セラソリ博士。市内の環境保護と緑地推進のプロジェクトを実施しています。以前イタリアの植樹地のプロジェクトに関わったアーティストから柿の木プロジェクトのことを聞き、参加を申し込みました。

4月1日、市の花の博覧会の時に2本の柿の木を植樹しました。植樹式では地元ローマの日本人学校の子どもたちがいけ花を披露してくれました。

アジョン庭園

 フランス

 リール

 2004年5月23日



1998年、9月22日～11月15日にパリで開催された日本人アーティストのグループ展「どないやねん」展で展示した柿の木が2本ありました。展覧会終了後、1本は1999年フランス、ボルドー在住のシャンタル・ラッセル・ローさんの申し込みによりシステュード[®]自然公園に植樹されました。残り1本は、展覧会企画者のエリック・メチルさんがアビニヨンの美術館へ移り、そこで保管し、大切に育てていました。

2004年、エリックさんはリールでも同様の展覧会「あきまへん」展を行うことになり、柿の木プロジェクトの紹介を行うとともに、大切に保管していた柿の木を植樹したいと連絡がありました。植樹場所のアジョン庭園は専門の造園家が管理しているNPOの市民農園のような場所です。

植樹に先立ち、ボルドー在住のアーティストでシステュード[®]自然公園植樹の中心者であるシャンタル・ラッセル・ローさん、そして娘のナディアさんが、子どもたちとともに石膏で小鳥をつくるワークショップを行い、展示の手伝いをしてくれました。植樹式当日、シャンタルさんはワークショップを行い、子どもたちに紙で出来た衣装を着せ、近くの池から摘みとったハスの葉を帽子にしました。子どもたちはハスの葉にさまざまな色の顔料を好きなように乗せ、その葉を池に浮かべ水を少しかけました。ハスの葉の上にのせた顔料は水に溶け出しとてもきれいな水の絵となりました。ワークショップの間、同じ展覧会に出品しているアーティスト野村誠さんとその仲間の方々が飛び入り参加。周囲で小鳥の鳴き声のような音を出してくれたり、式典の最中もピアノの即興演奏を行うなど、植樹を盛り上げてくれました。